

生徒が相談できる環境づくりを！ ～CAP ながのワークショップ～

子どもが抱える深刻な悩みの多くは、いじめ・虐待・体罰・誘拐・痴漢・性暴力などの様々な人権侵害を、友達または教師・親(家族)などの身近な大人から受けたことによるものです。それを防ぐためには、大人が子どもの人権を守り、子どものSOSサインを見逃さないようにすることと、子ども自身が自分を大切に、相談できるすべを身につけることが大切です。

今年度、県の「相談力向上事業」の実施モデル校に指定されました本校では、NPO 法人「CAP ながの」様をお招きし、5月では職員向けに、そして今月の20日と22日の2日間にわたって、1年生向けにワークショップ(参加型学習)を実施しました。

例えば「いじめ」の場面。3名の講師の皆様は、巧みにいじめのロールプレイ(役割劇)を演じながら、いじめる側の気持ち、いじめられた側の気持ちを生徒に考えてもらいます。迫真の演技を見て生徒は、まるで自分が体験したかのように当事者として本音を語りだします。ただ本を読んで考えを答えるだけではた違いに理解が深まる内容に、私は圧倒されました。

生徒はこのアクティブラーニングの手法にすっかり馴染み、活発に自分の意見を発言していました。このことが、私の考える本校の大切な宝物、「先生と生徒との距離が近く、親しみやすい学校」という特長が更に発展し、何よりも安心安全な蓼科高校として、地域の皆さまの信頼を受けられたら最高だと思います。



困ったお話(その10) によろよりの驚異の一夜

あれは先週の夜、仕事を終えて校長室で帰り支度をし、何気なく手洗い場を見た時だった。細い黒いヒモが、水道の蛇口から流し台に伸びていた。「なんでこんなヒモが？」手に取ろうとした瞬間、そのヒモが咬んできた。**へびだ～!**

この予期せぬ驚きは、イモリの干物を手に取った時以来だ(No.1号参照)。ああ、たまげた。へびがやってくる校長室は、全国数千高校の中でもここだけかもしれない。

しかし驚きが去ると、私はもともと犬猫鳥と同様に爬虫類や両生類も好きなので、しげしげ観察した。これは子供の青大将だ。よく見るとかわいい。青大将は古い家に棲みつく家の守り神だという。きっと本校も古いから守られているにちがいない。吉祥だ(喜んでいいのかわからないが)。

『へびと同居の校長、咬まれる』と報告すれば話題にはなる。しかし、いつまでも校長室にいられては困るので、この子は外に逃がした。



さて一夜明け、まだ暗いうちに私はランニングに出た。教職員住宅下の道路は、遠くの街灯に照らされ、ぼんやり鈍く光って見える。その先に、黒い縄がピーンと伸びているのが見えた。嫌な予感がした。近づくとやっぱりへびだった。

しかし明らかに青大将と様子が違う。胴体はずんぐりで頭が三角形。かわいくない。

まむしだぁ!!

